

**令和2年度（2020年度）第2回  
北海道環境パートナーシップオフィス運営協議会 議事要旨**

日 時 令和3年1月28日（木）13:30～16:00  
場 所 オンライン配信（北海道環境パートナーシップオフィス）  
出席者 別紙参照

**1. 開会**

**事務局** 今年度、環境省北海道環境パートナーシップオフィス（以下、「EPO 北海道」という。）では、ローカル版 SDGs である地域循環共生圏に選ばれた案件を支援していくことについて、メインの事業として取り組むことになった。また、昨年10月、菅首相が2050年に炭素中立することを表明し、今後はそうした取り組みが加速していくと思われる。どのようにEPO北海道として取り組んでいくかは一つのテーマになると思う。これに付随して企業のSDGsの認知度の向上とともに取り組みが進んできたことや、今年度からESG金融を促進してきたことをはじめ、今期は変化の激しいものであった。特に今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で社会が一変することとなったが、元々EPO北海道は対面での活動や対話を重視していることから、活動に大きな制約がかかることとなった。そうした中で取り組んできたことについて本日は事務局からご説明申し上げます。

また、第5期の最終年ということでこの3年間でできたこと、できてこなかったことについて、委員の皆様よりご意見をいただきたい。もう一つは次の3年間にEPO北海道はどういったことをおこなっていくべきか、北海道では何が必要とされているかという観点からも幅広く委員の皆様からご意見いただきたい。よろしくご意見申し上げます。

**2. 出席者紹介（説明省略）**

委員1名、オブザーバー1名が欠席。8名中7名の出席により運営協議会の成立を確認した。

**3. 令和2年度事業実績報告及び質疑（説明省略）**

**議長** ご質問等いかがか。

**委員** 第6回全国ユース環境活動発表大会は、北海道地方ESD活動支援センター（以下、「地方センター」という。）が協力しているということか。RCEの全国大会に付随するユース会議がある。岡山県では市が主体になってSDGsとESDの両方に取り組んでいる。今年度は2月にオンラインで会合を行う。結局似たようなことを別々のところでやっているように見える。SDGsに関連した動きがEPO北海道、地方センターともにそれぞれ活動が大きくなっていく中で、どこがどういったことをおこなっているか把握して

おく必要がある。

**事務局** 全国ユース環境活動発表大会は、独立行政法人環境再生保全機構と環境省が高校生の環境活動を後押しするものであり、地方センターが協力している。おっしゃるとおり、高校生を対象に様々な機関が似たような取り組みを行っており、学校側の混乱を避けるため整理しておく必要がある。

もうひとつ、SDGs と ESD の関係について、地方センターを設立した当初は SDGs の「質の高い教育を」の中に ESD が位置付けられているということと、教育を通して SDGs 全体をサポートしていくことの 2 つでやっていこうという話であったが、国際的な ESD の枠組みであるグローバル・アクション・プログラム（以下、「GAP」という。）では SDGs 達成のための ESD と改めて打ち出しているので、地方センターではそうしたことを意識してやってきた。

#### 4. 第 5 期（2018～2020 年度）総括（案）報告及び質疑（説明省略）

**議長** 事業群ごとの総括について、ご質問、ご意見等いかがか。

**委員** 北海道庁が自治体に向けて SDGs の専門家派遣を行っていて、その一環で厚真町に行っている。SDGs 未来都市の申請に向けて資料作りを進めているが、なかなか苦戦している。そうしたコンサルティングについて、北海道庁との連携はあるか。

**事務局** 今のところ特に北海道と連携してはいないが、年度当初に、SDGs 推進企業の登録制度検討のため、EPO 北海道に相談へ訪れた。SDGs 推進人材バンクにも登録しているが、旅費や謝金の負担はないので、あまり活用されていないように思われる。地方の自治体では、上士幌町から「ジャパン SDGs アワード」への応募に当たってご相談をいただいた。

**委員** 札幌市内で SDGs のコンサルティングができる人は多くてもおかしくないが、道北在住の自分に声がかかるということ北海道庁も人材不足なのだろうと思う。

**事務局** どのような経緯から、お声がかかったのか。

**委員** SDGs 推進人材バンクの登録による。

**議長** SDGs のコンサルティングについて、まず EPO 北海道に相談しようという人がいると思うが、EPO 北海道だけではカバーしきれなくなったときに、こうした専門家がどれくらいいるのかがカギになると考える。事務局から見て、北海道は現在どういう様子か。

**事務局** 役場職員向けに SDGs 研修を実施した鹿追町は、札幌市環境局とつながりがあった。また、西興部村は地理的に下川町とつながりがあり、総合計画の改定に際し、SDGs の導入を検討されている段階である。

相談に応じて様々な人を紹介しているが、企業経営や自治体政策にどう織り込んでいくかといった専門性は先方の求めるものに合わせている。オンライン化により、道外の方を紹介することも可能になった。

**議長** SDGs の基礎的な普及というフェーズからは脱しつつある今、EPO 北海道としてど

れだけ相談者のニーズに合わせた人を紹介することができるかが求められていると感じる。

**委員** EPO 北海道が SDGs 未来都市の申請をサポートしたことは今までにあるか。

**事務局** SDGs 未来都市の申請については、行ったことがない。先述した上士幌町については、ジャパン SDGs アワードの応募に関して意見を述べさせていただいた。

**委員** SDGs 未来都市の指定は確か環境省ではなく内閣府が行っているものであったと思う。EPO 北海道として、地方自治体に対し SDGs 未来都市の申請についてアドバイスするという事はないのだろうか。

**環境省** 最近ではないが、似たことを熊本市で行ったことがある。その時は法政大学の川久保俊准教授のお力添えを得て、EPO 九州と一緒に熊本市の申請の動機付けから取り組んだ。初年は時間の余裕がなかったため不採択だったが、次年は時間をかけて準備したこともあり採択に至った。EPO と専門家が連携することで可能であると思う。

**委員** 省庁や分野が違うからできないということであれば考える必要があると思ったが、今の話を受けて、EPO 北海道にはぜひ自治体の相談に対し直接アドバイスしてもらえると良いのではないか。

**議長** その他ご意見等いかがか。

**委員** 事業群 1 の評価について、「取り組みが次の段階へ進んでいる手応えを得ている」とある。旭川市では地域循環共生圏についても ESG 金融についてもまだピンと来ていない行政の方や金融機関の方もいると感じる。この評価について、企画の参加者が知識として学んだということか。あるいは、今後の地域での事業の発展につながるものになったということか。

**事務局** まだ情報発信が十分でなく、全道を対象とした普及はできていない。「手応えを得ている」とした長沼町については、昨年度までは農産物のブランディングを中心とした取り組みをされていた。それが思うように進んでいなかったため、今年度は協働取組のノウハウを生かして、環境、経済及び社会をつなげる拠点をつくるため、地域のステークホルダーを交えて廃校の利活用を話題とした対話の場を設けた。また、ESG 金融に関する勉強会を、おそらく道東では初めて開催することができ、先進的な取り組みを行っている金融機関の情報を関係者と共有した。これは大きな成果と考える。

**委員** 事業群 1 について、自分も企業や行政において SDGs への意識が高まっていると感じる。実践的な取り組みを行いたいということで、連携の申し入れも複数きている。北海道庁や札幌市の協力を得て、全道の地方自治体とマイボトル運動を展開したいと考えているが以前と比べて取り組みやすい状況になってきていると感じる。ペットボトル運動については大手飲料メーカーも参加したいという話があり、環境の取り組みについては遅れてはならないとの思いが強いと感じる。

**議長** 地域によって SDGs やそれを取り巻く状況については差があると思う。事務局はいかがか。

**事務局** 自治体の現状はあまり把握ができていないのが正直なところ。上士幌町、豊富町、鹿追町とは今後も何かできればと考えている。また、北海道庁と連携し何ができるか模索していきたい。

**委員** 北海道庁からは自治体との連携した取り組みについて、支援したいと言っていた。コロナ禍で取り組むのは、様々な障害、課題があるがまずはやってみることを思っている。

**事務局** 第6期が始まる節目に、今一度、自治体に対する相談窓口を設けたり、パンフレットの送付により情報を届けることも必要と思う。

**委員** プラスチックごみの問題について、現在北海道庁で北海道海岸漂着物対策推進計画のパブリックコメントが行われている。とはいえ、北海道庁がスムーズに住民と対話できるわけではないので、そうした部分について環境省と EPO 北海道と一緒にプラスチックごみの対策をするなどのサポートができると良いと思う。

また、長沼町の件についてはタンチョウをブランディングのコンテンツとして盛りあげているが、北海道において一番湿原をなくした市町村は長沼町である。道内の湿原の減少は釧路湿原やサロベツ湿原で話題になっているが、この100年の間に、長沼町は湿原を水田に変えるばかりで、保全、復元といった事業をほとんど行わず、国土地理院の地形図からは、完全に湿原が消滅している。

自然再生や生物多様性保全といった、まさに環境省がおこなうことをしっかり含め結び付けたうえで長沼町のブランディングを行った方が良いのではないかと。

**委員** コープさっぽろで今後進めていく道内各地域での取り組みについて、あまり大上段に構えると地域の抵抗が生まれることになるかと考えている。EPO 北海道にはそうした部分で成果が上がるよう適宜協力してもらえればと思う。

**事務局** 今年度はコロナ禍もあり、長沼町との関わりは薄かったと感じている。今年度で事業は終了するが、今後どうするかはこれから考えていきたい。また、生物多様性等のテーマについては、次年度以降の事業にどう取り入れられるかを考えながら進めていきたい。

**委員** 地域で自然を再生し主流化していくのであれば、まずは自然とその担保、それらを持続的にする社会とのかかわりの双方を大事にするブランディングが必要と思う。地域循環共生圏やSDGsを地域で進めていくうえで何が課題になっていて、進めていくためのポイントは何なのかをより多くの人に発信していくと良いと思う。

**委員** ESD と SDGs を区別することなく使うという説明について、納得した。議論にあった SDGs の人材バンクについてであるが、札幌市にも小中学生向けに SDGs の授業をおこなってほしいという依頼が増えてきている。教員向けに行っているのは知っているが、そうした講師派遣等に関する取り組みについて状況を教えてほしい。

**事務局** 小中学生に向けた出講として、今年度は北広島市立西部中学校にて出前講座を行った。また、学校教育及び社会教育のスタッフ（教員）向けとして ESD アドバイザー

派遣制度を運用している。これは要請のあった団体に対し、ESD を学校でどのように取り入れていくかということについて、派遣されたアドバイザーが講演を行うものである。

**事務局** 札幌市内の小中学校については札幌市環境局が出前講座に行かれることが多いかと思う。EPO 北海道では 2019 年に札幌市教育センターの相談を受け、ESD 実践の第一人者である手島利夫氏をご紹介したことがある。また、学校教員であれば教科ごとに任意団体があると思うが、一昨年度以降は特に関わりがない。それ以前には石狩管内教育研究会から依頼をいただき、講話にうかがったことがある。

**議長** 全体総括の達成状況について、ご質問等あるか。

**委員** 今年度、例年とは違う状況下でもすぐにオンライン化を実施し、成果を出していることに感心している。やはり、SDGs および ESD の拠点として全国的にも認知がされていることも 1 つの成果と思う。

**委員** 生物多様性保全等の環境保全の統合的推進に関わったということについて、これは全体的な推進に関わったのか、あるいは関わった案件については確実に対応ができたということか。

**事務局** 全体的な部分はあまりカバーできていないため、関わった部分に対する記述である。大きなものとしては同時解決事業として関わった道東の SDGs 推進協議会と、長沼町の件である。そのほかにも単発の事業があるが伴走支援の立場としてやってきている。

**委員** 事業を行う中で課題が見えていることがわかった。

**委員** 少ない人数で行っていると、どうしても取りこぼす部分が出てくると思うが、EPO 北海道の役割を考えたときに、環境のベースになる部分を押さえたうえで社会や経済に広げていく必要がある。経済を重視して前のめりになるのではなく、自然環境の改善に向けて何ができるかを今一度大事にすることも必要ではないか。今後は気候変動や生物多様性、ごみ問題などが大きなテーマになると思う。ワーケーションを初めとする社会や経済に関するだけでなく、環境のことにもしっかりと目を向けつつ事業を進めてほしい。

**議長** 達成状況と今後の方向性について、各委員から一言ずついただきたい。まず個人の感想としては「第 5 期を踏まえた今後の方向性」について、全くその通りであると感じた。この総括では、先ほど委員が発言していた生物多様性やごみ問題といった環境問題を解決していくためにも、まずはパートナーシップが主流となる必要があるということが示されていると感じた。

**委員** 個人的には道内の湿地や生物多様性の主流化を目指して取り組んでいる。これには子供、女性、高齢者など多様な人とのかかわりの中で自然を守り育てていくことが必

要と考えている。こうしたことを進めていくためには、現状を把握した上で課題を整理することが重要である。

**委員** 地域横断的な取り組み、地域独自の取り組みなど様々な取り組みがある。多様性を尊重しながら、取り組みを進めることが大事と思う。現在、初山別村で”1,000人でも持続可能なまちづくり”をテーマに、まずは、高齢者の運動教室の取り組みを行っている。ただし、仕事があれば持続可能性が担保できないので、仕事づくりにも取り組んでいきたい。

**委員** 今後の取り組みの方向性について理解することができた。主体はあくまで実践者で、できれば長い期間で支え寄り添う伴走支援を実施してきたことが感じられた。多様な団体をつないでいくのは大変ではあるが、こうした場が増え活動が大きくなっていくと良いと思う。

**委員** 1月に道北、旭川を中心とする上川管内のNPO法人を対象にコロナ禍における活動状況について緊急アンケートを行った。事業縮小や解散を考えた団体もあることがわかり、今後市や北海道に向けた政策提言を行っていく必要があると感じているが、地域経済の疲弊や産業の衰退が現実であり、どのように持続可能な社会にしていくのかについては市民が真剣に考えていかなければならない。誰かに頼るのではなくみんなで見守りを出し合いながらやっていきたい。その中でもEPO北海道にはSDGsの環境分野におけるフロントランナーとしてアドバイス等をしていってほしいと思う。

**委員** 次期どうなるかわからないが、環境のパートナーシップオフィスであるというスタンスを大事にしてものを見るということを、いろいろな方とネットワークを作りながら実践してほしい。

**議長** 本日は生物多様性等の環境問題や、課題の絞り込み、伴走支援の重要性についてなど、委員の皆様には様々な観点でたくさんのご意見をいただいた。事務局からコメントはあるか。

**事務局** 環境を強く意識してやってきたつもりではあるが、今年はいろいろなアプローチが必要になり、経済面からのアプローチをやってみた年であった。道東のSDGs推進協議会での伴走支援から派生した取り組みが浜中町で動き出している。こうした動きを示せるようになることも必要と感じている。

**事務局** 今年度は新型コロナウイルスの影響で思うように企画等ができなかったが、オンライン対応でどうにか乗り切った。来年度以降、事態がどうなるかわからないが、オンラインであっても対面に劣らないコミュニケーションがどれくらい取れるかが課題になってくると考える。スキルアップを目指したい。また、環境保全についても事業として一層取り組んでいきたい。

**事務局** 入社早々異例の状況であったが少しずつ社会がそれに適応していく中で、現場の声を聴くことの大事さを感じながら過ごした今年度であった。委員の皆様には感謝申

し上げる。

**事務局** オンライン化が進んでいるが、地方自治体はネット環境の整備に時間がかかっている。コロナが収束し、オンライン対応の問題も解決すれば自治体同士のつながりも一気に広がると思う。そうした時に課題として注目されるのは、環境と社会と経済の統合的な発展だと思う。環境のデータと現状、将来をどうつなげていくかという部分が地域循環共生圏でも必要になる。EPO 北海道はすべての分野の専門家にはなれないので、研究者の方とのつながりを持ちつつ、持続可能な地域づくりに結び付けていきたい。本日は大変ありがとうございました。

## 5. 閉会

**環境省** 委員の皆様には、例年とは違う状況であるにもかかわらず本協議会にご出席いただいたことに感謝申し上げます。第3期では北海道の環境保全に取り組んでいる方に焦点をあてて「もう一つの環境白書」を作成した。第4期は協働をテーマに数多くの協働を実現させてきた。全国事業ではあるが、協働事業のマニュアルについても作成を行った。第5期ではこうした具体的な形は示せなかったが、SDGs や地域循環共生圏、地方センターをはじめ新しいことを切り拓いた期であったと思う。

EPO 事業はステークホルダーとのコミュニケーションによってパートナーシップをつくる大きな柱である。来年以降、SDGs や地域循環共生圏が EPO の取り組みの中心になると考えているが、パートナーシップの機能をベースとして事業を展開していきたい。地方センターについても一緒にご議論いただきながら運営していきたい。3年一区切りのため、委員の皆様の任期も今年度までである。これまで具体的なやり方等について、ご助言いただいたことに感謝申し上げます。また、いつも協議会をお取りまとめいただいた議長にも心より御礼申し上げます。来年度以降については委員の皆様から頂いたご意見を参考に、新たな方法を模索しながら枠組みを作り、取り組みを進めてまいります。この度は誠にありがとうございました。

以上